

「DIYで使う程度なら、工具は安価なもので十分ですよ……」なんてことを、ずいぶん昔に言われたことがある。私が初めて丸ノコを購入したときに訪れた、ホームセンターのベテラン風の店員にだ。そして、そのとき勧められたのが、三千円ぐらいの小型丸ノコだった。

しかし、実際に使ってみたその丸ノコは明らかにパワー不足で、ツーバイ材を一本カットするだけでも悲鳴を上げている状態だった。しかも、ノコ刃は普通の炭素鋼のものだから、すぐに切れ味が悪くなる。「ギギギ、キューン」という非常に耳障りな騒音を聞きながらの遅々としたカッティング……。これなら、手ノコで切ったほうがよっぽどマシだ！ 全然作業にならないので、結局、一流メーカーの造作丸ノコ（アルミベース仕様だ！）を買い直してしまった。そして、その切れ味、パワー、使いやすさは、やっぱり格違いの素晴らしさだったのである。

というわけで、DIYでもプロ用の本格工具が重宝することは間違いない。とくに使用頻度の高い工具に関しては、信頼できる商品を選ぶことによって、DIYで楽しめる内容も大きく広がってくると思う。その点、一流メーカーのプロ向けの

プロ用の工具は、 DIYでも使いやすいのか？

……まえがきにかえて……

ものなら、メンテナンス性や耐久性も抜群なので安心できる。多少、予算をオーバーしても、結局は買得になるだろう。

ところが、最近のDIYブームによって、その話は若干、いや大幅に違ってきている……。ホームセンターや工具店に行ってみれば、それは一目瞭然。一流メーカーの多くがDIY向けと銘打った工具を続々とリリースしており、その性能は、かつてのフラッグシップ的な工具と遜色がないほどになっているのだ。そして、驚異的な低価格。もはや、工具に関しては、プロ用とかアマ用とか言っている時代じゃないのである。

結論を言おう。DIYでは高価な工具をいきなり購入するよりも、同じ予算でDIY向け工具を何点か入手したほうが、楽しめる作業の幅は圧倒的に広がってくる。そして、その工具たちの隠れたポテンシャルを最大限に引き出すためにも、本書をフルに活用していただければと思う。

なお、本書の原稿は私、西野が書いているが、監修の栗田宏武さんの強力なアシストがなければ、ここまで充実した内容にはならなかっただろう。あらためて感謝したい。

……西野弘章

!9 DIY流、ジグソー完全使いこなし術	64
@0 「丸ノコ」買うなら、アルミベース仕様で決まりだ!	70
@1 「丸ノコ」を安全に使うための、超基本から極意まで	74
@2 DIYの必需品、「電気サンダー」を使いこなす!	80
@3 「ディスクグラインダー」の徹底活用術	84
@4 「電気カンナ」は、DIYでも必要なのか?	88
@5 「トリマー」があれば、DIYはもっと楽しくなる!	92
@6 「卓上式電動工具」という名の最終兵器	96
@7 究極の工具、「エアツール」を使いたい人へ	100
@8 新時代のDIYに不可欠な「溶接テクニック」	102
知ってお得なDIY役立ち情報 w 「粉塵対策」を考える	106

PART2 大工道具編

@9 「ノコギリ」は、目的に合わせて使い分けたい	108
#0 意外と難しい? 「ノコギリ」で真っ直ぐに切るワザ	112
#1 「カナヅチ」は、手に馴染むものを入手しろ!	116
#2 失敗しない「クギ打ち」のための極意	118
#3 「バール」で、クギを美しく抜く方法	122
#4 DIY時代を象徴する「カンナ」の新常識	124
#5 仕上げに差を付ける必需品、「ノミ」	128
知ってお得なDIY役立ち情報 e 工具の自作について	132

PART4 作業道具編

#6 たかが、「ネジまわし」と侮るな!	134
#7 「プライヤー」のバリエーションを使い分ける!	136
#8 DIYで実用的な「ボルト締め」のツールとは?	138

DIY工具50の極意

CONTENTS

まえがき	9
------	---

PART1 工具購入編

q 「目的」を持った工具選びこそが、重要なのだ!	14
w 価格に差あり? 現代ツールショップ事情	16
e 「エルゴデザイン」の時代がやってきた!	18
r 激安のワゴンセール品は「使える」のか?	20
t パワーツールとハンドツール、どちらが便利	22
y 「充電式」と「コード式」、どちらが便利	24
u 「コードレスツール」は、バッテリーの能力で選べ!	26
i 女性や子供にも使いやすい工具とは?	28
o いまや、工具も「替え刃式」の時代なのだ!	30
!0 中古工具は使えるか? 賢い道具揃えのために	32
!1 徹底検証! 「100円ショップ」の工具たち	34
!2 ホームセンターを賢く活用する方法	36
知ってお得なDIY役立ち情報 q 作業時の「装備」について	38

PART2 パワーツール編

!3 「充電式ドライバー」は、どのタイプが買いなのか?	40
!4 だれでもできるはずの「ネジ締め」の落とし穴	44
!5 「ビット」だけは、激安品に手を出すな!	48
!6 「電気ドリル」は、無段変速タイプで決まりだ!	50
!7 「穴開け」は、ビットの角度と目線が重要なのだ	54
!8 手軽なカットには、まず「ジグソー」を!	60

PART1 工具購入編

明日、工具を買う人への超即レファレンス



#9 材料を「固定する」ための、第三の腕たち……………	140
\$0 仕上げに欠かせない「サンディング」の極意……………	142
\$1 薄板のカットには、「カッター」が超便利なのだ……………	144
\$2 「シーリング」で、住まいの補修も楽勝！……………	146
\$3 DIY流、「塗装」の楽しみ方……………	148
\$4 いい仕事は、いい「作業台」から生まれる……………	150
● 知ってお得なDIY役立ち情報 工具のメンテナンス……………	152

PART5 計測道具編

\$5 史上最強の計測ツール、「サシガネ」を使いこなす……………	154
\$6 精度の高い墨つけは「スコヤ」にお任せ！……………	160
\$7 知っておきたい正しい「メジャー」術……………	162
\$8 「水平器」は、賢く使いこなそう！……………	166
\$9 長い直線の墨つけには、「墨ツボ」が超便利だ！……………	168
%0 リフォームで使いこなしたい、2つの神器……………	172
【知っておくと役に立つ！DIY用語集】……………	174

● 監修者からのひとこと……

DIYの極意は、何事も楽しみながら作業することだと思う。ところが、初心者は練りに練ったプランも進行途中で変更になったり、予想外の失敗をすることも少なくない。プロの場合は、長年の経験に基づく技術とカンが備わっているが、初心者にはそれがないためだ。

そこで、よき右腕となるのが“工具”である。その工具をいかにうまく扱うか……。私が28歳で大工の見習いを始めたとき、お世話になった親方の元では手ノコで材料の加工を行っていたものだ。しかし、見習いの私が手ノコで精密な加工をするのは困難だったため、電動工具を有効活用することにした。電気工具は使い次第で、初心者にもかなりの精度の加工を可能にしてくれるのだ。私は、それをマスターすることによって、短期間で独り立ちすることができたのである。これはほんの一例だが、これからDIYを始めたいと思っている皆さんも、本書で紹介した50の極意を实践することで、より簡単に、より楽しく、DIYにアプローチすることができるでしょう。……栗田宏武



「目的」を持った工具選びこそが、重要なのだ!

木工がメイン? それとも、リフォームやウッドデッキ作り?

いまから30年ほど昔、朝のテレビで放映していた日曜大工の番組を楽しみにしていた記憶がある。「DIY」という言葉は、この番組で初めて知ったのだ。おそらく、あの頃が日本での第一次DIYブームだったと思う。ウチの父親も、当時売り出されはじめた電気工具セットを購入して、庭に物置や植木台などを作っていたものだ……。

ところで、ひとくちにDIYと言っても、そのジャンルはさまざま。一般的にイメージされるのは、木材を使った工。本棚や机、テーブルなどを作る日曜大工だろう。そして、ウッドデッキやバーベキューグリルの作製、金属材料でアイアンチェアなどを作るのもDIYだ。さらには、最近人気の住まいのリフォーム。DIYが「何でも自分でやろう!」という意味なら、自分で家の改装をすることも立派なDIYというわけだ。当然、水道のパッキンを交換したり、破れた障子や網戸を修繕することも含まれる。

このように、DIYではいろいろな作業が考えられるわけで、その作業内容によって道具の必要度も変化してくる。家具の作製ではドライバードリルやジグソーなどが使いやすい

し、ウッドデッキを作るなら、より強力なインパクトドライバーや丸ノコが欲しくなるだろう。

したがって、これから工具を購入するにあたっては、まず、その作業目的をはっきりさせ、必要な工具をリストアップすることが先決だ。適材適所という言葉通り、目的に合った道具を左表を参考に整理してみよう。ただし、実際には最小限の

道具でいろいろな作業をこなす工夫もDIYでは大切だ。というか、予算の限られている一般のDIYユーザーにとっては、汎用性の高いツールから順次そろえていく方法が現実的。なはず。たとえば電気工具の場合なら、よほど明確な目的がない限り、いきなり自動カンナ台やスライド丸ノコを買う人は少ないだろう。やっぱり、ジグソーや電気サンダーのほうの使用頻度は圧倒的に多いのだ。具体的な汎用性や実売価格等については、PART2からを参考にしてみたい。



作業内容によって、欲しい工具は違ってくる

目的別! DIY工具の必要度

工具	木工作派	リフォーム派	ガーデン派
ドライバードリル	★★★★	★★	★
インパクトドライバー	★★	★★★★	★★★★★
電気ドリル	★	★★★	★★★
丸ノコ	★★	★★★★	★★★★
ジグソー	★★★★	★★★	★★★
電気サンダー	★★★★	★★★★	★★
ディスクグラインダー	★	★★	★★★★
電気カンナ	★	★★	★★
トリマー	★★★	—	—
スライド丸ノコ	—	★	★
テーブル丸ノコ	★★	—	—
糸ノコ盤	★★	—	—
自動カンナ台	—	★	★
ノコギリ	★★★★★	★★★★★	★★★★★
カナヅチ	★★★★★	★★★★★	★★★★★
ボール	★★★	★★★★★	★★★★★
ノミ	★★	★★	★
カンナ	★	★	★
ドライバー	★★★	★★★★★	★★
プライヤー各種	★★	★★★	★★★
レンチ各種	★	★★★	★★★
クランプ、バイス	★★★★★	★★★★	★★★
サンドペーパー	★★★★	★★★	★★
ドレッサー	★★★★	★★	★
カッター	★★★★★	★★★★	★★★★
カートリッジガン	—	★★★	★
塗装用具	★★★★	★★★★	★★★★
サシガネ	★★★★★	★★★★★	★★★★★
スコヤ	★★★	★★	★★
メジャー	★★★★	★★★★★	★★★★★
水平器	★	★★★★	★★★★★
墨ツボ	★	★★★	★★★
チョークライン	★	★★★	★★★
下げ振り	—	★★★	★★
間柱探知器	—	★★	—

*いずれも、必要度を★の数で示した。これからもわかるように、★の数が多い工具というのはそれだけ汎用性も高いということ。いろいろなDIYを楽しむなら、3つの項目の★のトータルが選択の目安になるはずだ

価格に差あり？ 現代ツールショップ事情

ホームセンターで買うのが便利だが、工具店や通販にもメリットはあるぞ！

現在、私が所有している工具類は、電動工具から大工道具、計測工具まで含めて、その半数以上は近所の「ホームセンター」で購入したものだ。ご存じのように、郊外に急増しているホームセンターでは、アマチュアレベルからプロ仕様までの多種多様な工具を豊富に取りそろえており、その場で気に入った工具を即購入できることが最大のメリットだろう。また、価格的にもリーズナブルで、DIY向けの工具をウソミたいな価格で販売していることも多い。「インパクトドライバ」、電池2個付きセットで七千円！」なんてことに遭遇するのもしら。限られた予算の中で実物を見ながらやりくりするのなら、やっぱりホームセンターが断然便利なのだ。ただし、店員の工具に対する知識には、かなりのバラツキがある。本書をしっかりと読んで（！）、工具に関する知識武装をしてから出掛けよう。

一方、昔からある「工具店（金物屋）」は、プロ御用達みたいに思われているが、もちろんアマチュアのDIYユーザーが利用してもかまわない。工具店でツールを買う最大のメリットは、店員の豊富な知識。とくに、カナヅチやカンナ

どといった大工道具に関しては、ホームセンターのDIYアドバイザーとは比較にならないウンチクを持っていたりするのだ。私もログビルダー時代には、行きつけの工具店でいろいろな知識を授けてもらった。アフターサービスについて良心的な店が多いことも、大きな魅力といえるだろう。

もうひとつ、「通信販売専門店」から工具を購入する手段もある。商品のラインナップは主にプロ向けになるが、価格は比較的良心的で、発注した次の日には自宅まで届けてくれるので私も利用することが少なくない。ただし、通販の場合は実物を見ずに発注することになるので、やっぱり、ある程度の商品知識は必要になるだろう。私の場合、ホームセンターで実物をチェックしてから検討してみることもある。

最後に、工具をタダで入手する裏ワザ。それは、田舎暮らしやログハウスなどの専門雑誌の読者欄をチェックする方法だ。ママに目を通して見ると、ときどき「工具譲ります」みたいな投書がある。うまくいくと、たいして使っていないコンプレッサーや自動タギ打機なども登場しているのだ。一度、チェックしてみてもいいかがだろうか？

工具の購入方法のいろいろ

【ホームセンターで買う】

豊富な品揃えと在庫によって、買いたいときにすぐに入手できるのがメリットだ。また、DIYレベルの工具だと、バーゲン品なら激安価格で購入できるチャンスも多い。ただし、店舗によって販売している商品のクセがあるので、私などは数軒のホームセンターをハシグすることも多い。また、スタッフの商品知識も、まったく素人同然の人から、メチャ詳しい人までいる。当然、工具を買うときは遠慮しないで詳しい人をつかまえよう！



【工具店や金物屋で買う】

とくに地方の店舗は、「信用」が前提で成り立っているの、工具に対する知識はすごい。工具の基本的な扱い方から、調整方法、メンテ、保管方法まで、こちらから質問すればほとんどのことは教えてくれる。さらに、同じ店に通うことによって常連になれば、クギー本買うにしても（あんまりないだろうが……）、ちょっとしたアドバイスを授けてくれたりする。DIYユーザーにとって、そんな店があるのは最高の幸せなのだ

【通信販売で買う】

主な通販店としては、「道具道楽」や「ホームメイキング」、そして、ネット販売の「道具屋ドットコム」などがある。とりあえずは、カタログを送ってもらい（もちろん無料だ）、自分が欲しいツールを比較検討してみよう。道具オタクじゃない人でも、こうした時間というのは結構楽しいものだ。品揃えとしてはプロ向けが多いが、いわゆる「安かろう悪かろう」的な商品は扱っていないので安心な買い物ができる



【タダで入手する！】

雑誌の読者投稿欄というのは、意外とツール入手の穴場だったりする。私自身がログハウス雑誌の編集者だった頃にも、「別荘のハンドメイドで使った工具一式さしあげます！」なんていう読者ハガキを結構たくさん読んだものだ。もっとも、最近ではインターネットでの工具のやり取りも盛んに行われているようだ。いずれにしても、個人対個人の交渉になるので、ぐれぐれもトラブルのないようにしたい



「エルゴデザイン」の時代がやってきた!

見た目にカッコいい工具が、じつは一番使いやすいという真実

エルゴノミクス・デザイン。つまりは「人間工学」に基づいた製品造りのスタンスは、自動車メーカーや家電メーカーの例を挙げるまでもなく、いまやハード製造産業においては常識になっている。そして、当然ながらそのムーブメントは、工具製造の分野にも押し寄せてきているのだ。

たとえば、これまでの電動工具といえば機能一点張りのものが多く、そのパワーや機能を引き出すには、人間のほうが機械に合わせて使い方を工夫しなければいけないことも多かった。しかし、創業当時からエルゴデザインを採用していたドイツのポツシユの製品などは、プロだけでなく世界中のDIYユーザーから高い評価を受けていた事実がある。そして、世はDIYブーム。国内メーカーも、ようやくDIY向けの工具にエルゴデザインを意識した工具を発表し始めているのだ。もちろん、これは電気工具だけの話ではない。

カナヅチやカンナなどの大工道具は、室町時代からほとんどデザインに変化がないといわれるが、これはそれだけ道具としての完成度が高いことの証明。ところが、最近では斬新ともいえるデザインの工具が数多く発表されているのだ。た

とえばドライバーで有名なアネックスは、ヘッドと柄を一体化させた流れるようなフォルムのハンマーを発表して大工職人の度肝を抜いた(グッドデザイン選定品)。また、SIILKYやKAKURUIのノコギリなども、これまでの真っ直ぐな柄のものではなく、手にしっくりと馴染むガンگریップ・タイプを採用したものに人気が集まっている。

そして、このようなエルゴデザインの工具というのは、見た目のカッコよさだけでなく、その使用感や耐久性などにも素晴らしいポテンシャルを発揮しているのだ。実際、私が暮らす田舎でも、エルゴデザイン採用で大人気の折り畳み式ノコをみんなが持っていたりする。これ一本で、簡単な日曜大工から樹木や竹の剪定、バーベキュー用の薪づくりまでがこなせるので、田舎暮らしの必需品になっているほどだ。

工具は、まず最初に使いやすさや耐久性、安全性などが重視されるべきだが、女性もDIYに興味を持ち始めている現在、見た目もカッコよく、かわいらしい工具つというのでも登場するべきだろう。もちろん、男性にとっても物欲をそそる工具のほうが絶対にうれしいはずだ。

最近、工業デザイナーと共同でエルゴデザイン採用の工具を製造するメーカーが増えつつある。これまで見なかったような常識破りの工具の登場を、今後とも期待したい



激安のワゴンセール品は「使える」のか？

一流品VS廉価品。B級工具たちの逆襲がはじまった……

先日、新聞の折り込み広告を見ていたら、某ホームセンターで2980円の丸ノコが売りに出されていた。コレって本当に使い物になるのだろうか？ 以前、安物を買って失敗してるからなあ。じゃあ、2000円の電動サンダーは？ 6000円のインパクトドライバーは一体どうなんだ？

ブランド品と無名ブランドの激安品が混交しているのは、工具の世界でも同じである。たとえば、一流メーカーのラチェットレンチは平気で一万円以上するが、ワゴンセール品ではレンチソケットも含めたフルセットで1980円だったりする。この価格差は異常ともいえるかも知れないが、実際、そのクオリティにはどの程度の差があるのだろうか。見た目は、たいして変わらないようだが……。

まず、すでに解説したように、DIYといえども使用頻度の高い工具に関しては、絶対に信頼できるモノを選ぶべきだ。しかし、最近では粗悪品といえる工具もずいぶん少なくなり、PL保険の義務化によって、製造メーカー不明といったジャンク品も見かけなくなった。逆に、格安のツールであっても、他社にOEM供給しているようなメーカーのものは、はつき

り言って余裕で使えるのだ。ヘタをすると一流メーカー品が2台買える値段だったりして性能を疑うこともあるが、まずDIYで使うレベルなら問題ないだろう。ただし、激安の電動工具の場合、電源コードの被覆ゴムが固くて扱いにくかったり、バッテリーの性能がイマイチだったりするものがあることも覚えておこう。

また、たまにしか使わない道具なら、あえて廉価品で間に合わせという考え方もある。たとえば金属DIYを楽しむ場合に、メガネレンチで鋼材を曲げることがよくあるのだが、こうした作業にスナップオンやハゼットといった一流品を使う人はいないだろう。その点、安物のレンチを利用すれば工具が傷んでも、心はあんまり痛まない。安物ソケットをインパクトに装着して、ボルトをガンガン締め付けたりもOKだ。

もちろん、こうした行為はメーカー保証外なので推奨はできないが（工具が破損してケガをする可能性もある）、私の知る多くのベテランたちが似たような裏ワザの使い方をしていることも事実。そして、そうした無理な使い方（？）にも黙って我慢してくれるのがB級工具たちなのである。

私が愛用している、最強のB級ツールたち……

【ソケットツールセット】

いまでこそ、木工での接合方法はコーススレッド（ネジ）を使うのが主流になっているが、以前の私は材料をサンドイッチ状態にしてからボルト留めする工法を好んで採用していた（139ページ参照）。そして、その作業にとても重宝していたのが、このレンチツールセットだ。ワゴンセール品といいつつも、インパクトドライバーでも相当酷使してきたが、いまだに現役に頑張っている



【トリマー&ディスクグラインダー】

これは予算の限られたDIYユーザーの味方、サンコー社のパワーツールたち。リーズナブルな電気工具を製造販売していることで知られる同社は、優れたモーター製造の技術を持ち、OEM供給もしている。当然、一流メーカーの工具と比較しても、機能的にはまったく遜色がない。とくに、ディスクグラインダーのほうは10年近く使っているが、いまだに故障知らずだ



【メンテナンスグッズ】

私がよく利用するワゴン品に、工具メンテナンス用のケミカル品がある。潤滑剤、オイル、グリス、シリコンスプレー、防錆ワックス……。カー用品コーナーでもこれらのグッズを探すことができるが、意外と値段が高い。ワゴン品でも中身はほとんど変わらないので、これまでのところ、まったく問題なく利用しているのだ



【タップ&ダイスセット】

これは、金属素材にネジ山を立てるためのツール。金属工作をしない人にとっては無縁の道具だと思うが、私自身は相当な使用頻度になっている。プロ用だとビックリするぐらいの金額になるが、私がか実際に使っているのは、フルセットで1,500円という価格崩壊的ワゴン品。でも、無理をすると破損しやすいツールでもあるので、プロでない以上は本格的なものはないというのが実感だ



パワーツールとハンドツール、どっちが便利？

加工スピードや精度では、圧倒的に電動工具が有利なのだが……

「いきなり電動工具を扱うのは自信がないし、第一、危なそうだなあ。とりあえずは、ハンドツールから入手しておくか……」。これからDIYを始めようというとき、こう考える人は案外多いと思う。しかしながら、かつて中学校の技術の授業で、ゲンノウとカンナ、ノミ、ノコギリといった「大工道具七点セット」を否応なしに買わされた経験を思い出して頂きたい。そして、そのなかでもノミやカンナなど扱いの難しさに、辟易した記憶はないだろうか？

たしかに、手道具はすべてのツールの基本であり、それを使いこなしていくことでDIYの技術も確実に高まっていくだろう。予算的にも、ハンドツールのほうがリーズナブルだ（銘品は別だが……）。しかし、最近になってリフォームに目覚め始めたウチの嫁さんの言葉を聞いてほしい。

「普通のノコギリで木材を切るのって大変だけど、ジグソーなら簡単だし作業スピードも早い。非力な私でも疲れないのがうれしいわ」。

これはどうやら本音のようだ。そして、この言葉が電動工具のメリットを明確に表してもいる。ここで、パワーツール

とハンドツールの特徴を挙げてみよう。

【ハンドツール】

- ・細かい作業が得意。
- ・マイペースで作業できる。
- ・作業スピードが遅い。
- ・疲れる

【パワーツール】

- ・作業が早い
- ・多量の作業が得意
- ・比較的、仕上げがきれいになる。
- ・取り扱いに注意が必要。

といった感じだ。これからもわかるように、利便性や安全性でいえばハンドツールだが、作業効率でいえば絶対にパワーツールである。しかし、丸ノコのように大量の木屑を飛散させ、騒音もうるさいツールをマンションの一室で使う人も少ないだろう。結局のところ、どちらが便利と言うことではなく、作業内容や作業環境によって、うまく使い分けていくことが現実的なのだ。



【ハンドツールの特徴】

使い方が簡単で、ビギナーでもすぐに使い始められるのが大きなメリットだろう。比較的安全性が高く、小回りが利くこともプラス要素。そして何よりも、手軽にマイペースで作業できることの精神的余裕が大きい。その反面、作業スピードはパワーツールには敵わない。また、長時間の作業では疲労度も少なくない。しかし、DIY自体を「楽しむ」という意味で、ハンドツールの存在意義が揺らぐことはないだろう



【パワーツールの特徴】

何といても作業のスピードが速く、多量の仕事でも難なくこなしてくれる。とくに、最近の主流になっているコーススレッドでの木材接合では、電動（充電）ドライバーを使わないと実質的に作業は不可能だ。また、丸ノコや電気カンナなどは危険をとまなうツールだが、正しい使い方さえマスターすれば、仕上げは抜群にきれいになる

DIY 工具に見る、手動・電動対決！

作業内容	ハンドツール	パワーツール	比較
切る	ノコギリ	丸ノコ・ジグソー	作業速度、加工精度、切り口の美しさのいずれもパワーツールが勝る。しかし、ちょっとしたカットではノコギリが便利
削る	手カンナ	電気カンナ	仕上げの美しさでは手カンナの圧勝だが、広範囲の仕上げでは電気カンナを使ったほうが作業もはかどるだろう
磨く	サンドペーパー	電気サンダー	細かい部分の仕上げにはサンドペーパーが使いやすい。しかし、電気サンダーの作業効率は手作業の数十倍にもなる
穴開け	ハンドドリル	電気ドリル	もはや、穴開けの作業でハンドドリルを使うことはほとんどない。電気ドリルや充電ドライバーを有効に活用しよう！
ネジ締め	ドライバー	電動ドライバー	木ネジや金具などの取り付けでは手回しのドライバーが使いやすい。電動式はコーススレッドの使用時に威力を発揮する
ミゾ彫り	彫刻刀	トリマー	造形的で複雑なミゾ彫りには彫刻刀が有利。しかし、一定距離を面取りしたり、アリ溝彫りではトリマーが使いやすい

「充電式」と「コード式」、どっちが便利？

場所を選ばずに使えるのは充電式だが、コード式の安定性も捨てがたいのだ

我が家の庭の片隅には、数年前、私がひとりて建築した広さ10平米ほどの隠れ小屋が建っている。このときの喜怒哀楽のエピソードについては私のホームページでご紹介しているが (<http://www.5c.biglobe.ne.jp/~gokuin/>)、何が一番苦勞したかと言えば、真夏の灼熱の暑さだった。

作業している日は、マジで2リットル以上の水を飲んで、たし、そのとき使っていた充電ドライバも同様に悲鳴を上げていた。当時は、バーゲンで購入した廉価品を使っていたせいもあって、バッテリーがすぐに弱音を吐いてオーバーヒートしていたのだ。もちろん、作業はそのたびに中断し、いらぬストレスが溜まっていく。その点、どんな灼熱地獄であろうと、安定したパワーを供給してくれるAC電源式の電動工具は非常に重宝した。パワーが持続する安心感があり、作業が途中でストップすることもなかったのだ……。

充電式か？コード付きか？ はじめて電動工具を買う場合、まず悩むのがこれだろう。バッテリーを装着したコードレスツールはどこでも使える利便性が受けて、ドライバードリルをはじめとして、インパクトドライバ、サンダー、丸

ノコ、ジグソーなど、さまざまなパワーツールに採用されている。また、最近はバッテリーの能力が飛躍的にアップし、パワー的にはAC電源式のツールに遜色なくなってきたことも事実。とくに、インパクトドライバやドライバードリルに関しては、プロの世界でもコードレス・タイプが圧倒的に主流になっているのだ。

しかし、これを逆に言えば、いまのところ充電ドライバ系以外のツールは、AC電源式を選ぶのが無難だということ。とくに、丸ノコや電気ドリルなどの場合、切削中に負荷がかかったときに、モーターの回転数が落ちるのを防ぐフィードバック回路が組み込まれているので、それに伴う大出力がどうしても必要になっているのだ。現在では、それに対応している大容量バッテリーも登場しつつあるが、まだまだ高価な買い物になる。真夏時や厳寒期でも安定した能力を発揮する意味でも、AC電源式に分があるといえるだろう。

もつとも、たとえばカメラの世界が、あつという間にデジタル化されたように、工具の世界もいずれコードレスが当たり前になるときがくると思うが……。



コードレスツールの特徴

- ・コード不要なので、場所を選ばずに使える。
- ・コードが材料や身体に絡むことがない（当然か！）
- ・電池切れになると、充電のために作業が中断する。
- ・バッテリー容量が小さいと非力。
- ・本体価格もバッテリーも、比較的高価。



AC電源ツールの特徴

- ・パワーに優れ、それが安定している。
- ・電池切れの心配がない。
- ・コードが絡むなどして、わずらわしい場合がある。
- ・作業場所によっては、延長コードが必要。
- ・比較的、安価なことが多い

「コードレスツール」は、バッテリーの能力で選べ！

主流は「ニッケル水素電池」タイプ。充電時間は、30分以内が目安だ

いま、ホームセンターに行くと、コードレスツールだけでもいろいろなメーカーのものが売られている。メジャーなのは、日立、マキタ、松下電工（ナショナル）の3社だが、ブラック&デッカーやボッシュといったDIY先進国からの輸入品も多いし、台湾や中国製などの廉価品もよく見かける。はたして、DIYニーズではどれを選ぶべきなのか？

ズバリ、これらの性能は価格に比例しているか？と考えると、一万円以下で買える充電ツールも、機能的には全然問題なく使える。私が以前持っていた充電式ドライバも台湾製の激安品だったが、使い勝手に関してはメーカー品とほとんど変わらなかった。じゃあ、メーカー品と廉価品との違いは何なのか？ その最大の要素は「バッテリーの能力」の違いだ。

これまで、コードレスツールのバッテリーとして主流だったのが、ニッケル・カドミウム（ニッカド）電池。廉価品の場合は、ほとんどニッカド電池が使われているが、ヘタをするると充電に1時間かかるものがある。また、長時間の使用ではバッテリーが熱を持ち、充電自体ができなくなることも多

い。さらに、バッテリーそのものを新規に購入するのが困難なことも少なくなく、バッテリーの寿命＝本体の寿命、という恐ろしいことにもなりかねない。せっかく買ったコードレスツールが使い捨てにならないためにも、バッテリーの入手経路は確認しておいたほうがいいだろう。

そして現在、一流メーカーではすでに採用されているのが、「ニッケル水素電池」。こちらは、標準的なニッカド電池の2倍以上の電気容量を持ち、一回の充電でより長く工具を使用することができ。また、充電も15〜30分程度と短めだ。もちろん、ニッカド電池との互換性はあるが、作業効率を考えるとニッケル水素電池をオススメしたい。

なお、ニッカド電池やニッケル水素電池は、メモリー効果といって、電池がなくなる前に継ぎ足し充電をすると、どんな電池の有効容量が減っていく。これを避けるためには、充電時はバッテリーを使い切っておくこと（リフレッシュ）が大切だ。ちなみに、ニッケル水素電池を充電できる充電器はニッカド電池も充電可能だが、ニッカド専用充電器では、ニッケル水素電池を充電することができない。

コードレスツールを選ぶポイント



【バッテリーの種類】

これまではニッカド電池が普及していたが、現在ではより容量が大きいニッケル水素電池が登場している。すでに、プロの現場では後者が主流になっており、今後はDIYでも普及することは間違いないだろう



【充電器の性能】

通常、容量の大きなバッテリーは充電時間も長くなるが、メーカー品の充電器なら比較的短時間（15〜30分）で充電が可能だ。写真は、メモリー効果を防ぐリフレッシュ機能付きの高性能充電器



【AC電源との互換性】

大工から絶大な人気を集めているのが、バッテリーとAC電源のどちらも使える2ウェイタイプ。いざとなれば、コンセントから電源を取ることによって、電池の消耗を心配することなく作業に集中できるのだ



【予備バッテリーの有無】

コードレスツールで一番やっかいなのが電池切れ。充電に30分以上かかるような機種では作業にならない。そこで絶対に欲しいのが予備の電池。あとから買い足してもいいが、最初から2個セットのものが買い得だ



【システムツールとは？】

コードレスツールのもうひとつの可能性として、ツールのシステム化がある。これは、松下電工やボッシュのDIYシリーズが採用しており、ひとつのバッテリーで数十種類のパワーツールを駆動させることができるという画期的なもの。ツールの種類は、ドライバやジグソー、丸ノコ、プロアー、サンダー、ライト、ケーブルカッターなどがあるので、コードレスツールに関しては同一のメーカーでそろえるのも賢い選択かも知れない

女性や子供にも使いやすい工具とは？

ハンディーで高品質なDIY向け工具が、どんどん登場しているぞ！

リフォームが人気だ。テレビや雑誌ではビフォー&アフター企画が大流行だし、ハウスメーカーもリフォーム事業を拡張しているところが急増している。ホームセンターのDIY教室でも、「フローリングの張り替え方」、「壁を珪藻土で塗ろう！」なんていう、本格的な内容が目白押しなのだ。

そして、そういった時代の流れには、やっぱり男性より女性の方が敏感である。女性雑誌のリフォーム特集でも、自分で室内壁を張り替えたり、ダイニングテーブルを作製したりと、男性顔負けのDIYウーマン（普通の主婦やひとり暮らしの女性たちだ）のパワーが凄い。しかしながら、アイディアでは勝る女性も、重い大道具を扱うには腕力的に厳しい側面があるようだ。そこで、ここではウチの嫁さんが使っているDIY工具をご紹介します。

たとえば、シルキーの「ミニミニ2」というノコギリ。一見、オモチャのようなサイズと形状だが、これがバカにできないスグレモノなのだ。衝撃焼入加工が施されたブレードは、ベテランが使っても満足できる切れ味。押しでも引いても切ることができ、ハンドル形状も片手で持ちやすいから、ビギ

ナーにもすぐく使いやすい。ハードクロームメッキされているので手入れもラクラクだ。ウチの息子も、以前は普通の柄の長いノコギリを使わせたが、これに換えてからは、いつにも増してDIYに熱中するようになっていく。

そして、小型の「電気ドライバー」。充電式のドライバーはいまやDIYの必需品だが、バッテリーを装着しているだけに、少々重量があるのが難点だった。その点、ボッシュなどでリリースしている電気ドライバーは、軽量で女性にも手軽に扱える。パワー的には少々不満も残るが、住まいの補修や簡単な木工作などに使うなら問題ない。ウチにも安物の電動ドライバーがあるが、小型の「ラチェットドライバー」とともに、意外と重宝しているようだ。

それから最近、嫁さんが近所の小学校などで教えるようになったワイヤークラフトで愛用しているのが、その名もズバリ、「ワイヤークラフトペンチ」（スリーピークス社）。メーカーと造形作家の共同開発だけあって、とても使いやすくてこれはオススメだ。子供たちにとっても、こういった「本物」の工具を使うのが楽しくてしょうがないらしい。



【意外と使える女性用ツール】

写真上は、ウチの嫁が所有する工具たち。手前のノコギリ「ミニミニ2」は押しでも引いても切れるため、ビギナーには使いやすい。ノコ刃はアサリのない細目なので、仕上げの造作用としても活躍してくれるのだ。プラスチックや金属用の替え刃もある。その奥のプライヤーは「ワイヤークラフトペンチ」。普通のラジオペンチと比べると、使い勝手は「全然違う」とか。右の二つのドライバーは、軽量コンパクトで小さな手でも握りやすく、力も入れやすい。子供たちにも好評だそう



【DIYシリーズとは？】

電気工具各メーカーでは、プロ向け製品のほかに、DIYユーザーを意識したものもラインナップしている。松下電工のマイジョイ、リョービのマイシリーズ、日立やボッシュのDIYシリーズなどがそれだ。これらの製品は、女性用というわけではないが、DIY用として軽量でコンパクトな造りになっており、非力な人でもとても使いやすくなっている。もちろん価格もリーズナブルで、機能的にもプロ用に匹敵するものがある。耐久性やバッテリー性能が多少劣るとされているが、DIYで使う範囲なら全然気にならないだろう



いまや、工具も「替え刃式」の時代なのだ!

プロの職人もご愛用。替え刃システムの絶大なメリット

「替え刃式」と言っても、すぐに思いつくのはヒゲ剃りだが、現在では工具に関しても、この替え刃仕様がメジャーになりつつある。ノコギリ、カンナ、ノミ、カッター……。いまや、刃物工具に関しては、そのほとんどに替え刃仕様がラインナップされているのだ。

かつては、刃物をしっかりと研げることが一人前の職人の証であったが、最近ではプロの現場でも「替え刃式」工具を使うのが当たり前になっている。刃物を研いでいるヒマがあったら、どんどん刃を交換して仕事を続けるといわけだ。かつて、私がログビルダーだった頃には、仕事が終わったあとは必ず自前のカンナやノミの刃を研いでいたが、それが工具に対する愛着にもつながっていったものだ。あれから約20年、時代の流れを感じる……。

替え刃式工具のメリットは、何と言っても面倒な研ぎの作業が必要ないこと。刃先が切れなくなったら、すぐに交換して作業を続行できるので時間的なロスもない。しかも、この替え刃が、意外と安価で購入できるのだ。ちなみに、ノコギリの替え刃は2000円前後、カンナの替え刃は300円ほ

どだ。こうなると、プロもアマも替え刃工具へ移行するのも自然の流れだろう。DIYユーザーにとっても、これを活用しない手はないのだ。

替え刃式のツールを購入する場合、注意しておきたいのが替え刃の入手ルート。よく売れているメジャーな商品なら、ホームセンターや工具店ですべて在庫があるが、廉価品の工具の場合、その替え刃自体が店に見当たらないこともしばしばなのだ。店員に聞くと取り寄せということになるらしいが、それではまったく替え刃式であることのメリットを活かせないだろう。

また、とくにノコギリの場合は、替え刃の互換性やラインナップなどもチェックしておきたい。たとえば、自分が購入したA社のノコギリの柄に、近所で買えるB社のノコ刃を装着できたり、C社の木材用、金属用、プラスチック用の替え刃を流用できたりすれば、それだけ作業の幅も広がるのだ。

「替え刃工具」のいろいろ



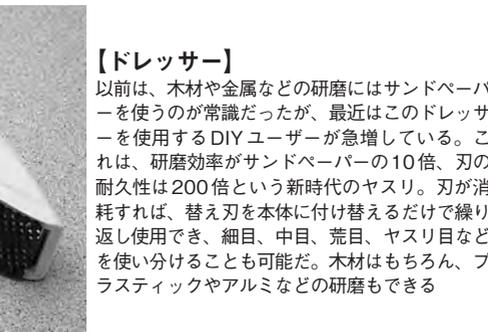
【ノコギリ】

替え刃式工具の代表といえば、このノコギリ。以前は、刃の切れ味が落ちてくると専用のヤスリを使って目立てをする必要があったが、ゼットソーをはじめとする替え刃ノコの登場によって、それが不要になったのだ。替え刃ノコギリはいろいろなメーカーから売られているので、とりあえずはその互換性をチェックしておきたい。また、新建材や塩ビ管、雨ドイなども切れる替え刃のラインナップがあると作業の幅もぐっと広がるはずだ



【カンナ&ノミ】

職人の世界では、カンナやノミの刃を上手に研げれば一人前といわれるが、いまではこれらの大工道具にも替え刃式が登場している。そしてその最大の特徴は、とにかく切れ味が鋭いこと。替え刃式の場合、刃先を研ぐことを想定していないので、ハイス鋼の数倍といわれる硬質素材を切れ刃に使えるためだ。DIYユーザーにとっても、美しい超仕上げを可能にする替え刃式の大工道具は大きな魅力だろう



【ドレッサー】

以前は、木材や金属などの研磨にはサンドペーパーを使うのが常識だったが、最近はこのドレッサーを使用するDIYユーザーが増えている。これは、研磨効率がサンドペーパーの10倍、刃の耐久性は200倍という新時代のヤスリ。刃が消耗すれば、替え刃を本体に付け替えるだけで繰り返し使用でき、細目、中目、荒目、ヤスリ目などを使い分けることも可能だ。木材はもちろん、プラスチックやアルミなどの研磨もできる



【カッター】

事務用品でもお馴染みのカッターは、日曜大工でも大活躍してくれる替え刃式ツール。壁紙や化粧合板、ベニヤ、石膏ボード、アクリル板など、カッターを利用して切る材料は結構多いのだ。もちろん、普通のナイフと違って刃を研ぐ必要もなく、どんどん刃先を折ることによって、つねに新しい状態で使えるのがうれしい。DIYで主に使用するものは、L型(大型)とよばれる軽作業用のもの。また、クロス用やアクリル専用カッターもある



替え刃式なら、研ぎの手間も必要ないのだ

中古工具は使えるか？ 賢い道具揃えのために……

インターネットで工具を入手するための心構え

「できるだけ安く工具を入手したい！」と考える人は、インターネットのオークションで中古を入手する方法がある。私も以前、「スライド丸ノコ」を競り落としたことがある。落札価格は二万三千元。通常、新品で購入すると五万円以上はする工具なので、まあ、満足できるオークションだった。

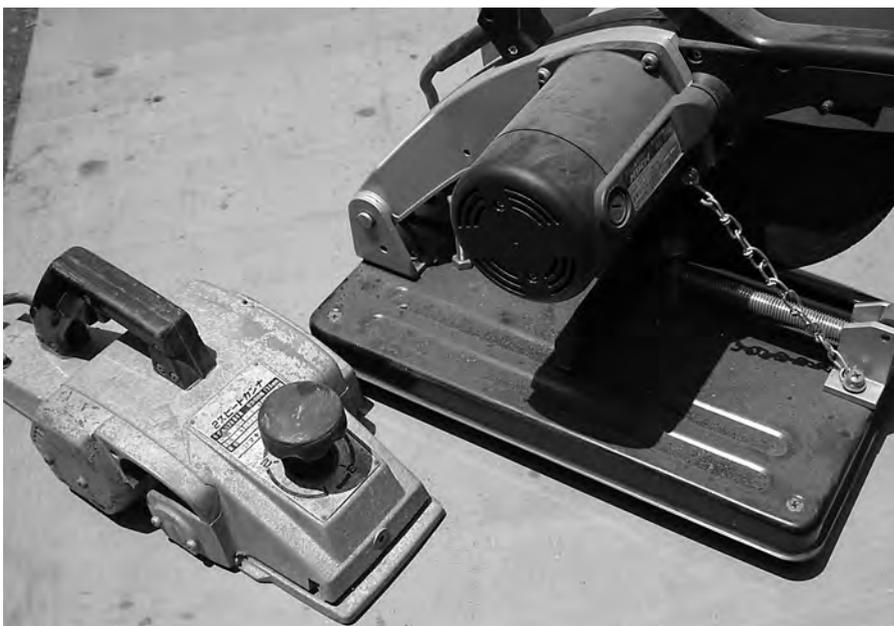
送られてきた商品は、中古ながらも使用感は少なく、目立った傷や消耗もない。これは出点者が趣味のDIYで使っていたからにほかならず、相手がプロの大工だったらこんな程度のいいものは入手できなかっただろう。そして、中古工具を買うときには、まさにこの点が大きな判断材料になるのだ。

通常、一般の人が週末にDIYを楽しむとして、月に数回の使用頻度。年間でも20日使うかどうかだ。それに対して、プロの職人は毎日のように工具を使うわけで、その使用頻度には雲泥の差が出る。

「僕のように建築専門で工具を使っていると、やっぱりその消耗はバカにできませんよ。場合によっては、一年で買い換えることすらあるんです。中古工具は安く買えるのが魅力ですけど、相手が見えないオークションでは、よくよくチェ

ックしておかないと失敗する可能性もありますね（栗田）」
高額な工具といえばエアコンプレッサーなどもオークションでよく見かけるが、コンプレッサーは空気を圧縮するためのポンプのパッキンが消耗品なので、中古は避けたほうが無難だ。また、インパクトドライバやドライバードリルなどの充電ツール系も、バッテリーの寿命が不明確なのでオススメしにくい。新品で安く入手できる廉価品も、わざわざ中古で入手することのメリットは少ないと思う。

逆に、中古でも問題なく使える工具についてはどうだろうか。基本的には、マキタや日立、ポツシユといった一流メーカーのプロ用電動工具がそれにあたる。たとえば、大型電気カンナやボール盤などの造りがしっかりしているものは一生モノといえるので、中古品でも十分に価値アリだ。DIYでは垂涎の工具であるスライド丸ノコなども、中古で十分に使える。こういったプロ用工具は、美観や年式などにこだわらなければ数万円で落札することも可能だ。さらには、銘名のノミやカンナといったレアものが売られることも少なくない。興味のある人はチェックしてみよう。



大型の電動工具類は、新品で購入するとかなりの金額になってしまうので、中古で購入するのもひとつの選択だ。その点、プロ用工具なら中古でも問題なく機能してくれるはずだ



【中古は避けたいツール】

充電式ツールはバッテリーの寿命に限りがあるので、中古品はあまりオススメできない。ただし、使用状況が明確になっている場合は検討の余地ありだ。また、大型ツールであるコンプレッサーもオークションでよく見かけるが、メンテナンス状況が不明の場合は避けたほうが無難だろう



【中古でも使えるツール】

プロ用やDIY向けでもハイエンドモデルのツールは耐久性に優れており、中古品でも十分に使えることが多い。とくに、新品では高額な自動カンナ台やテーブル丸ノコ、スライド丸ノコなどは狙い目だろう。ただし、プロの職人が酷使したようなものだと、結構ガタがきているものも少なくないので注意が必要だ

徹底検証! 「100円ショップ」の工具たち

何かと紛失しがちな工具なら、利用価値大なのだ!

我が家では、私をはじめとして嫁も子供たちもDIY好きなので、ツール類の所在が一定しないことが多い。

「この間使ってたドライバー、あれどうした?」「自分の部屋にないの?」なんて言う会話は日常茶飯事。いろいろ探してみると、子供のおもちゃ箱から昔なくしたメジャーが出てきたりする。使ったら定位置に戻すという基本的なことができていれば、まったく問題ないわけだが……。

というわけで、最近、何かと重宝しているのが100円ショップで買える格安工具。ドライバーからドライバー、クランプ、ヤスリなどのほか、ドリルビットやノミまでもが売られているのだ。これらを複数個買い求めて、それぞれの部屋にバラまいておけば、急ぎの用事のために重宝してくれる。

気になるのはその性能だが、これが意外と侮れない。精度や耐久性に関してはチープな値段相応なのだが、そういうことは最初から期待していないので、まあ許せる。逆に、もともと期待していない工具が、DIY環境を劇的に改善してくれる。たとえば、3本組み100円という驚異的な「ドリルビッ

トセット」。これは、まったく期待せずに使ってみただけに

ビックリした。使えるのである。私は、木材だけでなく、金属に穴開けする機会も多いのだが、この激安ビットは文句も言わずにしっかり仕事をこなしてくれるのだ。耐久性もDIYニーズでは問題ないレベルだと思う。

それから、もうひとつ大量入荷して重宝しているのが、「メジャー」。実際にDIYを楽しんでいる方ならすでに感じていることも知れないが、この道具ほど必要なきに手元がないとイライラするものはない。作業台の上、材料置き場、完成品を設置する場所、工具置き場の近く……。どこでも目に付く場所にメジャーを置いておくと、作業が中断せずに済むというわけだ。

また、叩く(ハンマーなど)、締める(クランプなど)、つかむ(プライヤーなど)などといった、さほど精度を要求されない工具についても、そこそこは使えると思う。

もつとも、あとも解説するように、ドライバー一本でもその選び方の奥は深い。あくまでも、応急的な意味における100円ツール活用であることをお忘れなく!

100円工具インプレッション!



【プライヤー 使える度=★★★☆☆】

噛み合わせの精度、使用感、手への馴染みなどは、29ページで紹介したワイヤークラフトペンチとは比較にならないが、「曲げたり切ったりは普通レベル」とウチの嫁さん。私は、釣り用のペンチに使っている



【ドライバー 使える度=★★★☆☆】

精密機械などに使うのは無理があると思うが、日用品のネジ締めには結構使える。延長グリップに差し込むとグラグラするが、逆に固着しないので済む。グリップの素材が堅く、手へのフィット感はイマイチだ



【ネジセット 使える度=★☆☆☆☆】

このセットは小ネジが6サイズそろっており、日用品の補修などに使えそう。というか、この容器だけでも100円の価値はある。ただし、インパクトドライバーで強くネジ締めすると、頭が潰れることがある



【メジャー 使える度=★★★☆☆】

一番気になるのは精度だが、人気メーカーのメジャーと比較してもまったく誤差はなかった(写真右)。ただし、ロックボタンが解除しにくいのが難点。巻き戻しのバネも強すぎるが、急場しのぎには十分使える



【ドリルセット 使える度=★★★☆☆】

木工はもちろん、金属の穴開けにも使える激安ビット。軸の素材がチープな印象を受けるが、ドリルチャックへの装着は問題ない。耐久性(切れ味)が不安なもの、ネジの下穴開けに使う程度なら問題なさそうだ



【ゴムハンマー 使える度=★★★☆☆】

普通のゴムハンマーよりもヘッド部の素材が硬めで、どちらかというとも木ツチ的な質感だ。材料同士の微妙な位置調整やホゾ組み、カンナ刃の調整などには使えるだろう。柄が細くて滑りやすいのが唯一の難点か?

ホームセンターを賢く活用する方法

工具のレンタルから宅配サービスまで。アドバイザーの知識もどんどん活用しよう！

いま、郊外をドライブしていて一番目に付くのが、ファミレスと「ホームセンター」である。先日、千葉県北部にオープンしたジョイフル本田を見に行ったが、世界最大級の規模と宣伝されているだけあって、巨大な資材館や工具売り場を見るだけでも半日はつぶせそうだった。業界売り上げ一位のカインズホーム、ダントツの店舗数を展開しているコメリ、クラフト用品が充実した東急ハンズなどを含め、いまやDIY産業は3兆円規模のマーケットといわれている。そして、その中でしのぎを削っているだけあって、現在ではどこもさまざまな顧客サービスを行っているのだ。

私自身がよく利用するのは、工具類や材料の宅配サービス。重量のかさむ卓上式電動工具やツーバイ材、合板などは、大きな車でも持っていないと自分で運ぶことはできないので、宅配サービスで家まで運んで貰うのだ。また、時間限定にはなるが、無料で軽トラックを貸し出してくれるホームセンターもあるのだ、どんどん利用したい。

木材のカットサービスや工具のレンタルも、ホームセンターならではのカスタマーサポート。これは、一カット50円ほ

どの料金で注文通りのカットを行ってくれるのか（一定条件をクリアすると無料のホームセンターもある）、大きな材料を置けないマンション暮らしの人などにとっては、利用価値のサービスといえるだろう。

最近、徐々に見かけるようになったのが工場のレンタル。広々とした頑丈な作業台や、各種の工具類を自由に使うことができるのがうれしい。購入した材料をその場で加工できるので、カットサービスを利用するより自由度が高いはずだ。もちろん、作品を最後まで完成させることも可能。週末は予約で混雑することもあるが、料金もとても良心的なので、意外とオススメのシステムだ。また、DIY教室についても、最近ホームセンターが力を入れ始めている。

いずれにしても、工具を購入するときには、まず、知識のある店員に話を聞くに限る。繁忙期になると工具のことなんか知らないバイト君も多くなるが、DIYアドバイザーの資格を持っている店員をつかまえて、納得できるまで説明してもらいべきだろう。ただし、ベテラン風に見えても、まるで知識のない店員もいるので用心したい。

我が家から車で30分圏内には、数多くのホームセンターが点在している。なかでもよく利用するのが、カインズホームやジョイフル本田といった大型店舗。これは工具類や材料の品揃えが豊富なことだけでなく、さまざまなカスタマーサービスが充実しているからだ。こうしたホームセンターは、地域密着型の工具店とはまた違った意味で利用価値大なのである



ホームセンターで利用したいサービス



【レンタル工具の利用】

大型ホームセンターでよく見られるのがこのサービス。とくに電気工具はほとんどの種類がそろっているので利用価値大だ。実際に工具を購入する前に、その使い勝手を知るために便利だろう



【配送サービス・トラックの貸し出し】

購入した大型工具や材料などは、配送サービスを頼むと便利。また、車を運転できる人なら運搬用のトラックを借りる手段もある。ちなみにカインズホームの場合は、1時間以内なら無料で貸し出してくれる



【小冊子の活用】

これはホームセンターで無料配布しているパンフレットのこ。タイルの補修方法やフスマの張り替え方法など、幅広いDIYのノウハウがわかりやすく紹介されているのだ。一度、チェックしてみよう！



【カットサービスの利用】

作るもののサイズがきっちり決まっている場合は、材料を購入したらその場でカットしてもらおうと手間が省ける。利用料金も比較的リーズナブルだ。レンタル工房があれば、自分で作業することも可能だ

作業時の「装備」について

DIYを安全に楽しむためには、それなりの服装や装備というものがある。万一の事故に備えてスタイルを整えることは、プロでもアマチュアでも軽視できないのである。

まず、基本のスタイルは長袖・長ズボンで、動きを妨げずに作業できることだ。まあ、夏の暑い時期は半袖で作業してもいいが、袖口や裾がだらしなく垂れ下がっているような服装は、電気工具に巻き込まれる危険がある。また、電気工具を使うときに、着用しておきたいのが「革手袋」。綿の軍手だと電気工具に巻き込まれる危険性があるが、自分の手にフィットした薄手の革手袋なら最高の防護アイテムになってくれるはずだ。ただし、墨つけなどの細かい作業でいちいち手袋を脱ぐのが面倒だが……。

さらに、安全面でいえば、「防護メガネ」もマメに着用するべきだ。日本ではあんまり浸透していない防護具ではあるが、外国の工具メーカーのカタログを見ると、作業中の写真の人物は例外なく防護メガネを着用している。DIY先進国では、安全対策にも厳しい基準が設けられているのだ。防護メガネはゴーグルタイプや顔面をすべて覆うタイプなどがあるが、とにかく軽量のものを選ぶことが大切。重いものだと着用するのが面倒になり意味がなくなる。

その他、騒音対策として「耳栓」、粉塵対策としての「防塵マスク」なども、必要に応じて着用したい。



DIYでの安全装備として用意しておきたいのが、薄手の革手袋、防護メガネ、防塵マスクなどだ